

2021年12月21日(火)

① 健康寿命

厚生労働省は20日、介護を受けたり寝たきりになったりせずに日常生活を送れる期間を示す「健康寿命」が、2019年は男性72.68歳、女性75.38歳だったと公表した。

前回調査の16年(男性72.14歳、女性74.79歳)から男性は0.54歳、女性は0.59歳延びた。

都道府県別で健康寿命が最長だったのは男性が大分県の73.72歳、女性は三重県の77.58歳。最短は男性が岩手県の71.39歳、女性が京都府の73.68歳だった。

② 日本の個人金融資産

日銀が20日に発表した7—9月期の資金循環統計によると、家計が保有する金融資産残高は9月末時点で1999.8兆円と2000兆円の大台に迫った。前年比では5.7%増。株高・円安で投資信託や保険・年金の残高が増え、過去最高を更新した。

家計の金融資産のうち、「現金・預金」は前年比3.7%増の1072兆円で歴代2位の高水準。「株式等」は28.6%増の218兆円、「投資信託」は24.0%増の90兆円。「保険・年金・定型保証」は1.1%増の539兆円で、投信と保険等はいずれも過去最高となった。

企業の金融資産は8.3%増の1250兆円。「現金・預金」が4.4%増の321兆円、「株式等」は10.2%増の371兆円だった。

日銀の国債保有は538兆円で、残高に占める比率は44.1%で6月末と変わらなかった。海外の保有額は164兆円で、残高に占める比率は13.4%となった。

③ 中国利下げ

中国人民銀行(中央銀行)は20日、1年物の最優遇貸出金利(LPR、ローンプライムレート)の引き下げ、つまり利下げを発表した。

これまでの3.85%から3.80%となった。

ただ、利下げ幅は小さく、景気下支え効果は限られそうだ。

緩和縮小に向かう欧米とは逆行する政策だが、浜銀総合研究所の白鳳翔主任研究員は「当局による不動産投資などに対する取り締まりの影響が表面化し、厳しいコロナ対応で内需も冷え込むなか、利下げせざるを得ないほど中国経済は芳しくない状況にあると受け止められたようだ」

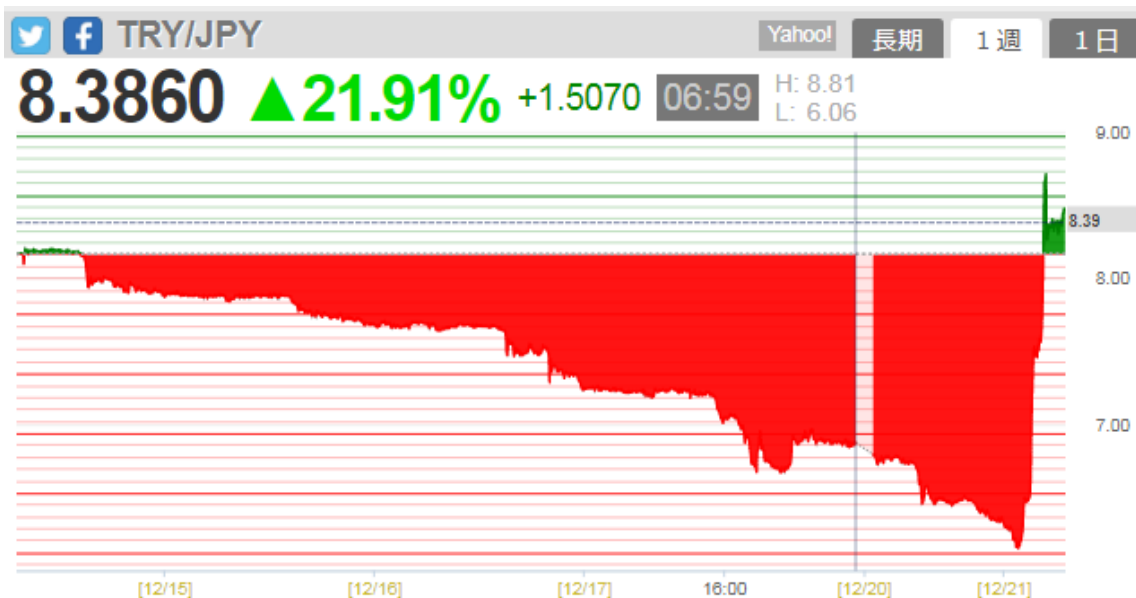
と指摘。

上海総合指数などの反応は鈍く、日本株には売りを加速させるきっかけになった面がある。

④ トルコリラ

NY 外為市場でトルコリラが荒い展開となった。エルドアン大統領が週末、金利の引き下げを継続する方針を維持することを再表明したため、朝方はリラ売りに拍車がかかり、史上最安値を更新。株式、債券相場も大幅下落した。その後、エルドアン大統領が為替変動からリラ建て預金を保護する措置を発表。リラの下落が銀行金利を上回った場合、預金者の損失を政府が補償するという。大統領は今後、為替変動を恐れ、預金をトルコリラから外貨に移行する必要はないと訴えた。このため、リラの買戻しが加速。

ドル・リラは 18.36 リラまで上昇し、史上最高値を更新後、12.28 リラまで急反落。リラ円は 6 円 06 銭の史上最安値から 9 円 86 銭まで急反発した。ほぼ 1 カ月ぶり高値を更新した。



⑤ ウニ

ウニの取引価格が高騰している。豊洲市場(東京・江東)で今の時期主力のロシア産バフンウニの卸値は安値でも 1 枚(250 グラム)8 千円前後と前年同期の 2 倍の水準。高い物では 2 万円前後となっている。殻の中の身が小さく、歩留まりが悪い。国産は主力の北海道産が赤潮の影響で 1 枚 3 万円超と前年の 2 倍の水準で最高値となった。競り場では品薄感が強い。

ウニもカニも大きく値上がりしてきましたね。